

# 令和4年度第1回香取海匠地域保健医療連携・地域医療構想調整会議 開催結果

## 1 日 時

令和4年11月10日（木） 午後1時30分～午後3時5分

## 2 開催方法

Web開催（Zoomによる）

## 3 出席者

委員総数 25名中22名出席

島田委員、齊藤委員、小川委員、菅澤委員、廣瀬委員（代）、吉田（和）委員、  
布施委員、福島委員、保津委員、日下邊委員、渡邊委員、今泉委員、  
篠崎委員（代）、吉田（象）委員、菊地委員、露口委員（代）、桑原委員、  
飯倉委員、仲條委員、上野委員、井元委員、松本委員（会長）

医療機関関係者 9名出席

## 4 会議次第

### （1）講演

地域医療構想寄附研究部門の活動報告について

### （2）議事

ア 医師の働き方改革について

イ 2025年に向けた医療機関毎の具体的対応方針について

### （3）報告事項

ア 令和3年度病床機能報告の結果について

イ 公立病院経営強化プランの策定について

ウ 地域医療介護総合確保基金による各種事業の実施状況について

エ 外来機能報告について

オ 脳卒中連携ネットワークの進捗状況について

## 5 概要

### （1）講演：地域医療構想寄附研究部門の活動報告について

資料1により千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センターから説明

### （2）議事

ア 医師の働き方改革について

資料2により医療整備課医師確保・地域医療推進室から説明。

イ 2025年に向けた医療機関毎の具体的な対応方針について

資料3及び資料3-2により、健康福祉政策課地域医療構想推進室から説明。

## 【意見及び質疑応答】

(地域医療構想アドバイザー)

まず、働き方改革については、厚生労働省のいきサポ、県の勤改センター、医師会が設置している評価センター等、公的な取り組みが行われているが、これらをしっかり使って、また使った記録をしっかり残しておくということが大事になる。最終的にゴールまで辿り着くことが大事であるが、そこまでのプロセスをしっかりやっているというアピールをできるようにしておいていただくと良いと思う。この地域は、労働環境をかなり良くしないと医師を集めることが難しかったのではないかと思うが、そういった中でいろいろな工夫をしておられるので、実は最も進んでいる地域の一つではないかと思っている。ただ、この働き方改革のフォーマットというか、表現の仕方が独特であるので、この独特な表現の仕方に合わせた形で表現していただく必要がある。十分にご配慮いただければと思う。

続いて、具体的な対応方針について、地域ならではの観点を加えた具体的な対応方針を示すことが可能という立てつけになっている。国や県で重視するところを示しているが、それ以外に地域の視点を入れることは可能だと考えている。地域で完結する、あるいはより広域で対応するといったことを、コロナの問題や働き方改革の問題を含めてしっかりと検討いただき、方針が固まった際には、地域としてもぜひ足並みを揃えて取り入れていただければと思う。

また、重点支援については、再編・統合がある程度前提になっているが、国が技術的な支援を行うことになっている。この技術的な支援は、従来だとどちらかという国が上から目線で話をするということが多かったようだが、昨今だいぶ状況が変わっていて、地域の状態がどうなのか話をしっかり聞いた上で、取り組みを促進するような役割を果たしている等、良い評判を聞いている。そういった観点からも、再編・統合等を検討する際は、こういったものを活用あるいは検討すべきものではないかと考えている。

この会議の中で様々なことをすぐに進めるのは難しいと思うが、日頃の取り組みの中で活用してみようということがあれば、協力させていただきたい。

### (3) 報告事項

- ア 令和3年度病床機能報告の結果について  
資料4により健康福祉政策課地域医療構想推進室から報告。
- イ 公立病院経営強化プランの策定について  
資料5により健康福祉政策課地域医療構想推進室から報告。
- ウ 地域医療介護総合確保基金による各種事業の実施状況について  
資料6により健康福祉政策課地域医療構想推進室から報告。
- エ 外来機能報告について  
資料7により健康福祉政策課政策室から報告。
- オ 脳卒中連携ネットワークの進捗状況について  
資料8により香取保健所から報告。

## 【意見及び質疑応答】

(委員)

脳卒中連携ネットワークについて、急性期医療に影響が出ないか非常に心配していたが、血栓溶解療法・血栓回収療法ともに実績が伸びているということでひとまず安心した。この事業は平成30年度からの取り組みだが、開始当初、目標はどのくらいにするのか質問いただき、血栓溶解療法の目標は二桁と言ったところ、それは無理ではないかという意見をいただいた。それでも血栓回収療法を加えると、実は二桁いつている。血栓回収療法の適用は8時間以内であったのが、16時間から24時間とどんどん伸びており、適用範囲は広がっている。フローの中で何かご意見等あれば、事務局の方にお寄せいただければと思う。必要があれば、関係者で集まって解決策を検討し、また報告させていただきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

### (4) 全体を通しての意見及び質疑応答

(オブザーバー)

各地域の調整会議に出席させていただいているが、どの地域でもやはり医師不足や医師の働き方改革の影響を非常に心配されている。先ほども話が出たと思うが、宿直届を出さないとカウントされてしまうので、ぜひ宿直届を出していただきたい。ただ、それをしている、二次救急が破綻するのではないかと心配している医療圏もあった。この地域がどれだけ派遣している方が多いのか等の実態が見えて、声が上がってくると、身近に迫ってわかってくるのではないかと思う。適宜タイムリーな情報交換をしていただいて、この地域の問題点を洗い出していくことが必要ではないかと思う。

(委員)

今日は大きなテーマがたくさんあったが、もうすでに各病院で検討をずっとしてきた問題であるので、今すぐにどうということはないが、基本的には、今行っている医療サービスをほとんど低下させないで、この時代を乗り切らなければならない。働き方改革についても、地域医療構想についても、それが第1番目であるので、その実現に向けて、この仲間と地域の皆さんとともに考えていきたいと思っている。これはやれば必ずできることだと確信している。

私は医師になってもう50年になるが、かなり厳しい時代をやってきた。今までは、医師あるいは医療者個人の努力で克服してきたが、これからは全体の体制として持続可能な医療体制を作り、皆さんとともに地域医療をこれからも担っていかなければならないと改めて思っている。

(地域医療構想アドバイザー)

病床機能報告について、高度急性期の不足の正体は何かを考えると、スタッフの不足、人材を確保するのに非常に苦戦しているということが実はあるのではないかと思う。その一方で、脳卒中ネットワークの実績や発展ぶりを拝見させていただくと、様々な高度な機能を発揮することができており、とても良い工夫がされているのではない

かと推察される。人の確保がさらに進めば、先ほど吉田先生がおっしゃったような持続可能な体制がどんどん進むのではないかと思う。

ただ、公立病院の経営強化プランについて考えると、医療従事者の確保というのはどの病院においてもとても大変なことになるのだろうと思う。やはり経営がしっかりしているということの中には、各市町村が持っている財政力がかなり重要な要素になってくる。従来、医療サービスを向上させるために財政力が使われる側面があったと思うが、吉田先生のお話にもあったように、これからは医療サービスを低下させず、持続・維持させることに非常にコストがかかる時代になる。そのコストをどのように支えていくのかを考えていかなければいけないということをお願いされた。

また、外来機能については、医療機関の役割分担が外来についても進んでいくことになる。この際、紹介重点になる病院はいいが、かかりつけの方が、例えばフリーアクセスが今後どうなっていくのかというところが問題になるだろうと思う。現状、財務当局などはいろいろ言っているようだが、フリーアクセスを前提にしたものは考えていないということをお願いされた。

今後も人の問題が大きくクローズアップされ、その背景にあるお金の問題についても議論を進めていかなければいけないのだろうと思う。しっかりと議論いただければと思う。本日は大変勉強になりました。どうもありがとうございます。

(医療機関関係者)

医師確保について、若い先生方に奨学金という形でお金を出すというのはすごく良いことだと思う。研修が必要な時期に都市部の病院で研修を終えて、その返済期間を終えると、各々のところに行くということが割と多いと思う。以前に四国にいたときは、ある程度キャリアを積んだ30代の先生を郡部の病院に招聘すると、お金を出しているケースがあった。若い先生は郡部の病院になかなか行きたがらないので、ある程度キャリアのある先生にお金を使うということを検討してもいいのではないかと思う。

(医療整備課医師確保・地域医療推進室)

修学資金を使って、主に地域卒の学生を支援して、その後9年間働くというシステムはあるが、先生のおっしゃるような、ある程度経験を積んだ医師をターゲットにした施策は、今のところ本県では行っていない。ただ、医師確保の手段については色々検討しており、年齢を問わず、医師少数区域に対して医師派遣をした場合の補助金の用意はある。もし具体策をご提案いただけるようであれば、ぜひアイデアをいただきたいので、医療整備課にメールをいただきたい。